



復刊第156号  
題字 吉岡弥生

### 巻頭言

副会長 加藤 竺子

既にお読みになられた方も多いと思いますが、平成10年度版厚生白書「少子社会を考える」はいたるところで好評です。

子どもを産み育てることに夢を待てる社会を、と副題がついています。従来の厚生白書とは一味も二味もちがって内容も構成も斬新、統計も豊富で事例がコラム形式で大変分かりやすく書かれています。身近な感覚で思わず引き込まれて読んでしまうおもしろさがあります。

執筆責任者は前厚生省情報化・地域政策推進室長椋野美智子さんで、女性の視点から男性中心社会への厳しい批判もうかがえ、共感するとともに大変参考になります。ある友人に一読をすすめたら、読んで目から鱗が落ちる思いがしたと話していました。

男女共同参画社会づくりは、その一翼を担う女性自身の意識改革なくして実現はむずかしいと思います。社会の対等な構成員としての自覚を

持ち、あらゆる活動に参画し、責任を担って始めて成り立つのではないのでしょうか。男女がお互いに人権を尊重し、良きパートナーとして豊かな成熟社会を作り上げていくことが望ましいですが、まだまだこれからです。

特に、社会的・文化的に長い間に作り上げられたジェンダー(性差)を解消していくには、ジェンダー視点の整理が必要であり、そうした意識改革はまだ時間がかかるのではないのでしょうか。

男女共同参画社会審議会は、内閣総理大臣を本部長として男女共同参

画社会づくりのための基本法を来年の通常国会に提出すべく検討中です。また、1999年春には男女雇用機会均等法改正施行とともに、勤労女子保護規定が廃止されます。ある面では女性にとってきびしい点もあります。

近年の女性の社会進出はめざましく、女子医学生の数も年々増加傾向にあります。医科系大学では25〜35%が女子で占められているようで、既に二十歳代の医師の25%、四人に一人は女性であり、二十一世紀には半数に迫るのではないかと予想されています。こうした時代背景を考えると、日本女医学会としても女性医師が平等で少子高齢社会の担い手として十分に活躍できるように、基盤整備に向けて努力しなければならぬと思います。

特に女性であることでハンデイを感じることもなく活躍できるように、具体策の検討や医師全体の研修のあり方についても、若い男女の医師の現場の意見をもっと把握できる機会を持ちたいと思います。

会員の皆様からの建設的なご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

#### 第44回定時総会のご案内

■日時 平成11年5月22日(土)  
■場所 札幌市・ロイトン札幌

### もくじ

巻頭言……………加藤 竺子 (1)

〈第17回学術研究助成研究経過報告〉

乳癌術後乳房再建方法の決定に関する適応基準について……………岩平 佳子 (2)

テレビゲーム誘発けいれんにおける光図形過敏性に関する研究……………石井のぞみ (2)

重症脳血管障害に対する軽度脳低体温療法の結果……………加藤 庸子 (3)

〈第43回定時総会記念講演〉

臓器移植をめぐる諸問題……………太田 和夫 (4)

国連NGO国内婦人委員会役員会……………橋本 葉子 (4)

小俣喜久子先生をお偲びして……………倉島 摂子 (5)

メイヨークリニック看護特別セミナー旅行に参加して……………渡辺 弘美 (6)

第1回日本医師会女性会員懇談会……………鹿田 儀子 (7)

〈支部だより〉 埼玉支部から……………加島 なみ (8)

「白衣」を脱ぐとき……………菊池 壽子 (8)

第1回少子化対策委員会……………石原 幸子 (10)

〈私の大学〉 広島大学医学部……………宗像 壽子 (11)

・新医学用語辞典……………

・第44回定時総会のご案内……………

・AAUWフェローシップのお知らせ……………

・国際シンポジウムのお知らせ……………

・パプアニューギニア救済金一覧……………

・日本人ペルー移住百周年記念式典参加について……………

理事会議事録……………

会員動静……………

編集後記……………

(12) (12) (11) (11) (10) (9) (5) (3) (2) (10) (8) (8) (7) (6) (5) (4) (4) (5) (8) (8) (10) (11)

### 第17回学術研究助成研究経過報告

## 乳癌術後乳房再建方法の決定に関する適応基準について

大田支部 岩平佳子

学術研究助成により行いました研究について報告致します。

#### はじめに

乳癌術後の乳房再建は患者のQOLに対する意識の向上とともに、実施される率も多くなって来た。また乳癌手術自体が縮小傾向になってきている現状より、再建方法は症例に応じて、適切なものを選ぶ必要がある。本研究は、乳癌術後乳房欠損に対し、乳房再建を行うにあたって再建方法を決定するための基準設定について行ったものである。

## テレビゲーム誘発けいれんに おける光図形過敏性に関する研究

杉並支部 石井のぞみ

方法と結果  
われわれが基準となるべく挙げた要素は、  
①患側大胸筋の有無  
②患側胸部組織量  
③患側腋窩、鎖骨下陥凹度  
④健側乳房形態  
⑤人工物への抵抗感  
であり、各症例ごとにこれらの状態を指標として診察し再建術式を検討した。

学術研究助成により行いました研究について、報告させていただきます。  
はじめに

の再建に加え、健側の reduction や mastopexy を行うことで対称性が得られた。また乳房温存施行例においても、人工物のみで十分なものと、広背筋弁が必要な例とがみとめられた。人工物使用に対する抵抗は、比較的少なかった。

#### まとめ

乳癌は同じ術式でありながら、症例や術者によって創の向き、大きさが異なる。また乳房再建は、単に乳房を膨らますという時代から、より自然に近く、復元することが求められる時期にきている。これらのことから、再建にあたっては症例ごとに健側も含めた術前の評価を行い、それに応じた再建法を決定することが重要と思われる。

### 新医学用語辞典

#### HOT study [Hypertension Optimal Treatment study] (高血圧最適治療試験)

スウェーデンのウプサラ大学のレナート・ハンソン教授らが26カ国の高血圧患者(50~80歳)19,193名を対象に数年間にわたって行っている疫学的試験で、①高血圧患者の目標拡張期圧を80mmHg、85mmHg、90mmHgの三段階にした場合と心臓血管系疾患の罹病率及び死亡率との関係の評価、②75mgのアスピリンを毎日服用させた場合とプラセボを服用させた場合の心臓血管系疾患の罹病率及び死亡率との関係の調査を目的としたものである。降圧しすぎると虚血性心疾患の合併症が増加する傾向があり、拡張期圧を83mmHgレベルに保つと生活の質を向上させることができるという結果が得られた。血圧は138.5mmHg/82.6mmHg位に保つことが最適であるという。

今私たちが、TGSの子防法確立を目的に、いかなる光図形刺激がけいれん発作を惹起しやすいかを明らかにするため共同研究を行いました。

#### 方法と結果

対象は、テレビゲーム中にけいれん発作を起こしたことがある患者十名です。年齢は、八歳五ヵ月から十九歳二ヵ月までで、一名を除いて、全例男性でした。  
通常の脳波検査(点滅光刺激を含む)に加えて、図形の刺激要素を、形、輝度変化、動きに分けて検討するため、新たに独自の図形刺激方法を開発し施行しました。すなわち、

#### まとめ

光図形過敏性は女性優位であることが知られていますが、TGSは一

般に男性優位といわれています。今回の研究でも、対象のほとんどは男児でした。これは、テレビゲームを楽しむ子どもが、男児に多いことが原因と考えられています。  
さて今回の研究で、図形の輝度変化や動きよりも、図形の形や、細かさ、ちらつきが、けいれん発作を惹起しやすい、危険な要素である可能性が示唆されました。

## 重症脳血管障害に対する 軽度脳低体温療法の効果

愛知支部 加藤庸子

学術助成研究により行いました研究について、報告させていただきます。

#### はじめに

重症脳障害に対する治療オプションの一つに、近年再度脳低体温療法が用いられるようになった。そのメカニズムの①thermo-poolingの防止、②脳内酸素消費量の低下、③グルタミン放出抑制と細胞内Caの増加防止、④フリーラジカル発生予防、などが注目されている。しかしながら完全ノックダウンの状況下では長期化する脳低体温療法下での免疫機能障害が指摘され、特に胸腺や下垂体機能(GH, PRL)の低下は重症感染の引き金となるとされている。今回、脳低体温療法の効果および免疫機

能につき検討した。

#### 対象

重症頭部外傷(GCS八点以下、発症六時間内、脳ヘルニア(-)二例、重症クモ膜下出血(GCS八点以下、H&K 4.5 クリッピング術後、脳圧コントロール不良例)二例、脳出血六例、低酸素脳症四例、脳腫瘍一例の計五九例に対して施行した。

#### 方法

ブランレットロールを用い、三二~三四℃の軽度脳低体温を三~五日に設定、モニタリングは、①ICP、②Sjog, ③S-Gカテーターによる心機能評価、④内頸静脈温、⑤TCDを計測し、画像評価として、①

CT(3DCT)、②SPECT、③DSAを行った。免疫機能に対し、T細胞、B細胞の機能を測定した。復温期の復温生体侵襲、即ちフリーラジカルの増加、脳血管攣縮発生、血液凝固系の低下、腸内細菌増加、免疫機能低下などに対し、イレウス管の挿入、高カロリー輸液内にグルタミン、アルギニンの投与やγグロブリン、抗生剤の投与とDIC予防の薬剤を使用した。

#### 結果

good recovery + moderate

disability: 15例, severe disability: 5例, Veg: 6例, dead: 33例であった。

良好な脳圧コントロールが得られたものは、64%で、一方、合併症(主に肺合併症とDIC)は、63%に認められた。画像診断上、脳血管攣縮に対しては著効は示さなかった。免疫機能では、とくにT細胞性免疫全般の機能は低体温療法開始から三~六日で低下し、復温後約一週間で改善した。

#### 考察・まとめ

本治療は、重症脳損傷というきわめて複雑な病態に対し、その反応も多様にわたり、各種モニターによる連続チェックに対応して治療を行う必要がある。また、救命センター下での高度管理を必要とする。しかしこれまでであれば、ほぼ全例死亡のケースの69%に良好例、効果例が得られた点は今後何がしかの効果が期待できるものと思われた。また、今後合併症管理にさらに重点をおけば、良好例が増加するといった可能性も示唆された。

### 第44回定時総会のご案内

#### ◎総会・評議員会

平成11年5月22日(土)  
会場 ロイトン札幌  
評議員会 9:30~12:00  
総会(登録費3,000円) 13:00~15:00

#### ◎支部行事

- 平成11年5月21日(金) 札幌ビール園
  - 渡辺淳一講演会 18:00~19:30 ポプラ館
  - 前夜祭(会費10,000円) 19:30~21:30 スターホール
- 平成11年5月22日(土) ロイトン札幌
  - 10歳若返るお化粧講座 9:00~13:00
  - 北海道物産店
  - 公開講演会 15:20~16:50  
「環境化学物質の人へのリスク評価の現状と課題」  
講師 北海道大学医学部 公衆衛生学教室 教授 岸 玲子
  - 母性保護委員会報告 16:50~17:20
  - 北海道支部40周年記念式典 17:30~18:00
  - 懇親会(会費15,000円) 18:30~20:30
  - ロシアショー鑑賞(会費3,000円) 21:00~22:30 国際ホテル札幌

#### 平成11年5月23日(日)

- ゴルフ 千歳カントリークラブ(会費未定)
- 旅行 5月23日出発
  - ・小樽半日コース(参加費10,000円) 千歳空港解散
  - ・1泊2日道南コース(参加費39,000円) 函館空港解散
  - ・2泊3日道東コース(参加費63,000円) 釧路空港解散

今回は予備登録は行わず、会費の納入をもって申し込み受付させていただきますのでご注意ください。



第43回定時総会記念講演

臓器移植をめぐる諸問題

東京女子医大名誉教授 太田和夫  
太田医学研究所長

平成9年10月より脳死・臓器移植法が施行され、わが国の移植医療も新しい時代を迎えた。この機会にわが国における臓器移植の現状を紹介し、諸外国の実状と比較し、問題点を考えてみたい。

1 わが国の現状

1964年に第一例が行われて以来、わが国の腎移植の総回数は一四〇八回となった。しかし、89年の年間八三回を最高に以後低下を続け、昨年の年間移植回数は生体腎四三六回、死体腎(献腎)一五九回の合計五九五回となった。献腎は全体の36.5%とヨーロッパの92%、米国の73%と比較して大幅に低い。一方、透析患者は増加を続け昨年末で



一七五、九八八名に達した。これは全世界の21.8%を占めるもので、人口比では欧米の二倍以上の頻度である。これらのうち約一五、〇〇〇名が移植を希望して登録を済ませている。

2 移植された臓器の働き

腎移植ではすでに三〇年を超えて生着し続けている。筆者が東京女子医大で経験した第一例もすでに二八年を経過し、完全に社会復帰を果たしている。腎移植の評価は生着率と死亡率に分けて表現される。前者は移植された腎の機能で生存している

比率であり、後者は移植腎機能の有無にかかわらず患者が生存している比率である。この両者の差は透析に戻った人の割合を示すことになる。女子医大の千例の統計で一〇年の生存率は91%、生着率は70%であった。肝臓移植については、わが国で実施された生体肝移植三四六例の五年生存率は76%となっている。心臓移植については外国で移植を受けた三三例の五年生存率は79%と良好で、ほとんど全例が社会復帰している。

3 脳死・臓器移植はどうなるのか?

法律が施行されたにもかかわらずいまだに心臓移植は行われていない。なぜか、という疑問が投げかけられる。これにはいろいろな原因があるが、これを法律面と現場における問題点、ならびに社会的な環境などと合わせて考えてみたい。まず法律面であるが、これは脳死での臓器提供は本人の書面による意思の表明が必須とされる。しかし、遺族は本人の意思があってもこれを断ることができ、一方、本人が生前に口頭で、家族に臓器提供を依頼しており、その意向をうけた遺族が申し出て提供はできない。という臓器を提供しない側にも力点がおかれたものとなっている。

と臓器は提供されない。カードの記載に不備があれば駄目と、そのハードルは高い。この意思表示カードには署名し、所持している人数は数%にとどまると推定される。これに加えて高齢者をはじめ悪性腫瘍や感染症を持った場合、糖尿病や動脈硬化などで臓器機能が低下した場合などは提供できない。

4 これからどうするか

今回の法律は紆余曲折を経て成立したもので、臓器を提供する場合に限って脳死を人の死とするという便宜的なものであり、また遺族の意思

国連NGO国内婦人委員会役員会

会長 橋本葉子

国連NGO国内婦人委員会役員会が1998年5月11日(月) 13:30~16:00まで、婦選会館において開催されました。当委員会は1957年に創設されたもので、(社)大学婦人協会、日本汎太平洋東南アジア婦人協会、日本女性法律家協会、婦人国際平和自由連盟日本支部、日本婦人権者同盟、(財)日本キリスト教婦人矯風会、(財)日本キリスト教女子青年会、(社)日本看護協会、日本BPP連合会、(社)日本女医学会の一〇

- 1 国連総会代表推薦の件
- 2 1998年度総会期日と提出案件
- 3 ジョルゲン・エジプト女性交流の件
- 4 国際人権規約完全実施連絡会議担当者からの報告
- 5 国際婦人年連絡会担当者からの報告

6 その他

藤田たき先生生誕一〇〇年記念行事の件  
1 について...三名の候補者が提出され、いずれも優秀な方々でした。委員長と副委員長が外務省と相談して決めることになりました。国連総会代表には以前山崎倫子名誉会長が三期務められましたが、現在は一期(二年)または二期代表とされる方が多いそうです。

- 定例総会期日...98年7月10日(金) 14:00~16:00
- 会場...婦選会館
- 提出案件...
- ① 97年度活動報告・会計報告
- ② 98年度活動方針・予算他
- 3 について...
- 日程...98年10月20日~28日
- お世話をする団体...日本BPP連合会仙台支部 東京滞在中は日本看護協会
- 予算...航空運賃・宿泊費・国内交通費は外務省負担。その他の経費として一〇万円くらい必要。
- テーマ...女性の経済的エンパワメント(仮)
- 4, 5 について...活動報告のみにする。
- 6 について...98年12月藤田たき先生の生誕一〇〇年に当たるので、12月23日(水)に津田ホールにおいて記念行事を開催予定。支援の要望を行う。

小俣喜久子先生をお偲びして

中野支部 倉島摂子

日本女医学会は国連NGO関連団体の中の「国際人権規約完全実施促進連絡会議(73年発足)」や「国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会(75年発足)」にも加入しております。国際婦人年連絡会はI

WYLGと呼ばれております。国連NGO国内婦人委員会の活動に関して、参加団体として今まで女医学会誌に報告されたことはなかったように思いますので、ご報告いたしました。

小俣喜久子先生が彼岸に旅立たれたのは三カ月前のことでした。無常の嵐はまだ胸を吹きすさび、偉大であった先輩を哀惜する情はつきることがありませぬ。先生のお元氣なお姿に接した最後が私でございます。それは5月26日武蔵村山市の社会福祉法人鶴風会本部で平成9年度の事業ならびに会計監査が行われました。監事の小俣先生には午後4時より7時前まで詳細に監査されて軽食をとり、私がお供をして午後8時ごろ吉祥寺のご自宅に戻られました。玄関をあけられて手を振られたにこやかな先生の笑顔、お元氣な最後のお姿が脳裡に焼きついております。翌5月27日午後3時ごろ、小俣先生が出勤されないの勤務先の葛西臨海クリニックの職員の方々がご自宅に急行し、居間で倒れられている先生を発見して杏林大学救急救命センターへ運んで下さいました。駆けつけた私に主治医は脳内出血で手の

ほどこしようもないとのことで、昨夜お別れした時の手を振られた先生のお姿とこの変りはおお姿、溢れる涙をおさえる事もできず、午前1時頃までお傍についておりました。十二日間の闘病生活で6月7日夕刻に八十五歳の生涯を閉じられました。小俣先生のご経歴は長く国立立川病院内科部長をつとめられ、退官後は請われて葛西臨海クリニックの所長として生涯現役を過ごされました。また日本女医学会副会長、東京都支部連合副会長等々、日本女医学会の先生方には先刻ご承知のとおりでございます。

AAUW Educational Foundation International Fellowshipのお知らせ  
AAUWはAmerican Association of University Womenの略語です。この団体からアメリカ留学のためのフェローシップの公募が参りましたのでお知らせいたします。  
年度：1999年—2000年 支給額：\$16,000.  
選定規準：  
① 学問的に優秀でリーダーシップの能力が証明される人  
② 地域あるいは職場の中で、他の女性と協調しながら生活することができる人  
③ 留学後確実に元の職場に戻れる人  
資格：  
① 以前又は現在AAUWフェローシップをもらっている人は申請できない。  
② 申請者は1998年12月31日以前に学士又はそれと同等の資格を有すること。  
③ アメリカ人およびアメリカとの二重国籍を有するものは申請できない。  
応募期限：  
① 正式書類提出期限：1999年1月15日  
② 申請書請求期限：1998年11月15日  
③ TOEFLスコア提出期限：1999年2月15日  
手数料：AAUWに支払うため\$20.00の為替又は小切手を添えること。  
参考：1998年—1999年の申請者は1,083名、フェローシップ授与者は45名。  
\*詳細は事務局にありますので、申請希望者はお申し出ください。  
(ナショナルコーディネーター・平敷淳子)

ある撤退と福祉にたずさわる方々から感銘の言葉をいただいたものでございます。この会の歴代の理事長中上川アキ女史、泉園子女史、龍知恵子女史、石井久子女史、小俣喜久子女史、皆様故人となられました。寂しい限りでございます。

を助けられて障害児療育の事業推進の一翼を担ってこられました。先生の最後のお仕事がこの事業の監査という因縁に私は眼に見えぬ絆を感じます。ご生涯を医師として理念を貫き通された故小俣喜久子先生に改めて無限の尊敬の念を捧げ心からのご冥福を祈ります。

合掌

# 東京女子医大看護短期大学 メイヨークリニック看護特別 セミナー旅行に参加して

— 医師の立場よりの印象記 —

東女学内支部 渡辺 弘美

1998年7月25日より8月2日の八泊九日で行われた、橋本葉子学長企画の第1回東京女子医大看護短期大学・メイヨークリニック看護特別セミナーに参加する機会を得ました。

1927年に非利益追求団体メイヨーファウンデーションによってロチェスター(ミネソタ)に創設された病院であり、特に臨床医学では世界最高峰の一つに挙げられます。大

学病院の医師・看護婦のトレーニング機関としても著名であることは、皆様もご存知のとおりです。その最先端を行く設備・組織・財源・病院経営哲学は抜群であると広く認められています。

東京女子医大の吉岡博人前理事長が、かつて、女子医大が世界のモデルイカルスクールになるためのモデルの一つとしてメイヨークリニックを視察し、この地にて「女子医大センター構想」を練られた、と伺っております。そして今、二年後に控えた女子医大創立百周年を記念し計画されている外来棟建設のモデルとして

再びこのクリニックが選ばれ、橋本葉子先生はハード面における視察の使命も持ちこたえた。一六名の参加メンバーはメイヨークリニックの施設で、外来棟建設の参考となりそうな部分を山ほど撮影してきました。

印象的であったのは、建築素材に頻用されている大理石で、古くなるほど歴史と伝統を反映して輝いてみえました。

そのメイヨークリニックの看護部・教育担当スタッフが、われわれの短大学生、および大学院看護婦のために、三日間の特別集中セミナーを開催して下さいました。メイヨーでは看護関係の国際交流として世界中二三カ国より一年間に一五〇名の研修を受け入れるため、専属のスタッフが活躍しています。看護システムに若干ふれますと、米国ではRN (Registered nurse, 正看護婦)に加えて、LPN (Practical nurse, 准看護婦)や、大学院卒業のCNS (clinical nurse specialist)、ナースプラクティショナー(開業可能な看護婦)など、看護職者の多様性・職

域の広がりに対して、わが国より活躍の場が多く、かつ進んでおります。現地での企画をコーディネートし、案内して下さったのは、メイヨークリニック名誉教授で神経病理学者岡崎春雄先生であり、そのおかげで橋本学長と筆者は、医学部関係や、のちに述べる老人用施設をも見学することが出来ましたので、この紙面では、おもに医師の立場よりの印象を記したいと思います。

米国では、かつて医療のイニシアティブをとっていた医師が、その役割を保険会社に牛耳られるようになってしまった」と嘆く声も聞かれました。というのは、米国では、保険がカバーしてくれる診療報酬や入院期間は厳しく制限されているのが現状です。疾病によって保険がカバーしてくれる入院期間や内容が設定されており、それ以上は自己負担となります。一日の入院費用は部屋代が個室約五・五万円、ICUが八・九万円であるために、通院が無理な場合には近くのホテルやウィークリー契約のアパートに滞在して、外来通院で検査や簡単な手術を受けるような方法が主流です。メイヨーの入院期間は平均五・六日間であり、状態によっては退院を余儀なくされるケースもあります。

このような、わが国の医療事情と照らし合わせると非常識とも思える現状に対して反発する医者もいます。が、保険がおりなければ自費か、病院負担になるわけですから従わざるを得ません。最初は仕方なく行っていた「入院期間短縮」のための医療上のいろいろのくふう、さまざまな試みが、結果的に入院期間の短縮に結びつき、早期離床傾向のよい結果がもたらされ、「やってみれば出来る」と、医者側より反省も含めて語られていたそうです。

米国とは医療保険制度が異なりますが、わが国においても、入院三カ月を経過すると入院費用が変動するためにベッドの回転をよくすることが推奨されています。米国が見本になり、入院期間短縮に拍車がかかるものと思われました。しかし米国では、看護職の中に、先に述べたような多様性、高度化があります。たとえば、早期に退院した患者は自宅で、ナースプラクティショナーにより、または必要に応じて医師の指示を受けつつ、より安価な費用で治療が継続できるシステムが整っています。

日本の看護職は、まだ訪問看護の歴史が浅く、システムとレベルにおける日米のギャップを感じました。しかしこれは、国民皆保険で、国民の負担が増えたとはいえ、まだまだ保険診療で十分に手厚い治療を受えられるという制度の相違にも由来するものと考えられます。

筆者は六年前にアメリカ東海岸のデラウェア州、ウィルミントンに滞在していた折に、老人ホームを見学する機会を得ました。行李一つで入所する、といった印象を試えきれない日本の老人ホームと比較すると、

を得ません。最初は仕方なく行っていた「入院期間短縮」のための医療上のいろいろのくふう、さまざまな試みが、結果的に入院期間の短縮に結びつき、早期離床傾向のよい結果がもたらされ、「やってみれば出来る」と、医者側より反省も含めて語られていたそうです。

米国の医療保険制度が異なりませんが、わが国においても、入院三カ月を経過すると入院費用が変動するためにベッドの回転をよくすることが推奨されています。米国が見本になり、入院期間短縮に拍車がかかるものと思われました。しかし米国では、看護職の中に、先に述べたような多様性、高度化があります。たとえば、早期に退院した患者は自宅で、ナースプラクティショナーにより、または必要に応じて医師の指示を受けつつ、より安価な費用で治療が継続できるシステムが整っています。



あるように、ここでも建物間がスカイウェイとサブウェイによってメソヂスト病院と交通しています。高齢者のみの世界として孤立することなく、豪華で心地よく安全な食・住の環境が提供されています。ひとたび身体的問題が生じれば、メイヨークリニックがあとに控えており、ADL(日常生活動作)の低下、さらに知的障害が生じて自立生活が困難になれば、同じ施設の中で介護をともなったより手厚いサービスを受けられるようになっております。

そのほかにこの施設は、股関節置換、膝関節置換などの手術をうけ、保険でカバーされた期間の入院後、まだ自宅退院は自信がなく、かつリハビリが必要という亜急性の患者が一定期間滞在して通院する目的にも使用されています。またともに支払えば一日五〜六万円の部屋代を考えると、この施設の有用性が納得できます。ちなみにこの施設への入会金は、小シングル個室は約一千万円、大二個室は約二千五百万円であり、この入会金の返却希望の有無で月々の経費が約二〜三万円異なります。入会金の返却を希望しなければ、その分月々の支払いは安価となり、一人約一四万円であり、入会金なしの場合は約二八万円の支払いで生活をすべてまかなっていただけます。食事

は、最上階にあるすばらしいスカイビューの、帝国ホテル並みのダイニングルームで、たぐさんのメニューから選択可能、といった豪華さです。余暇にビリヤードやカードなどを楽しんだり、ソーシャルライフも充実しているように見受けられました。高齢者へのサービスの切り売りではなく、ADLの変化にスムーズに対応した施設の利用方法、メイヨーメデイカルセンターという信頼できるサポートシステムを有する精神面・健康面でのQOLを重視したコンセプトには、まさに「目から鱗」といわざるを得ません。

高齢化社会にすでに突入しているわが国において、われわれの身近な所にこのようなサービス施設が整うことが、夢でないことを願わずには

を得ません。最初は仕方なく行っていた「入院期間短縮」のための医療上のいろいろのくふう、さまざまな試みが、結果的に入院期間の短縮に結びつき、早期離床傾向のよい結果がもたらされ、「やってみれば出来る」と、医者側より反省も含めて語られていたそうです。

## 第1回日本医師会女性会員懇談会

北支部 鹿田 儀子

いられませんでした。看護セミナーでありましたが、医師の立場から多くの場面で感心した

8月6日(木) 日医会館において第1回日医会女性会員懇談会が開かれた。坪井日医会長、石川副会長、青柳・西島常任理事、女性会員懇談会委員は日本女医学会石原幸子(練馬)、青井禮子(葛飾)、平敷淳子(埼玉)、鹿田儀子(北)、澤晶子安房(千葉)医師会理事、高岡邦子港区(東京)医師会理事、星ヶ丘病院(福島)鶴岡美果先生、大阪大学付属病院(大阪)中島和江先生の八名出席。

坪井会長より来年3月まで委員会できなく懇談会として三回くらい開き今後の方向をきめたい、女性会員の意見を聞き運営の中に活かしたい、と挨拶があった。

石原幸子先生が座長に指名され、このような機会を持つことができ、長い間の希望がかなえられたと挨拶。つづいて今回は自由討議ということことで意見交換した。

組織の強化が第一の問題ということとで各委員が意見を述べる。男女を問わず若い世代はさまざまな問題で入会せず、女医だからということ

空間の狭さに加えて、それまでの個人のライフスタイルを尊重し、自分が使用していた家具類を持ち込めるという発想が、私にとって非常に胸打たれるものがありました。その後も高齢者・超高齢者を対象とした研究を継続していますので、ロチェスターにおける高齢者施設のように興味がありました。岡崎教授にうかがいましたところ、病院に隣り合わせで、メイヨークリニックが所有する有料老人施設があるとのことで見学をさせていただきました。

チャーターハウスと呼ばれるこの施設は、当初ほかの民間会社が所有していたものが、経営がうまくゆかず、メイヨークリニックが買い取り、以来順調な経営となったそうです。その成功の鍵は、施設が有名な病院に地理的、組織的に直結していること、ライフスタイルを縦の流れと、横の広がりでもらえたコンセプトにあるということ。高齢になっても精神・身体機能が保たれている時点において、老人だけの集団のいわゆる「老人ホーム」への入所は抵抗があるものです。

老人だけのコミュニティは非日常的で活動性に乏しいという観点より、二階建て、二九〇室の近代的な豪華アパートの二割は、メイヨークリニックに勤務する医師たちであり、結果としてさまざまな年齢層の住民よりなる共同体の形式を採用しています。建物は、メイヨークリニックのほかの建築様式がそうで

支部たより

埼玉支部から

埼玉支部長 加島 なみ



猛暑の7月11日(土) 川越東武ホ  
テルにて総会を施行。たまたま同日  
に浦和にてプライマリケア学会全  
国大会が開催され、来賓や会員の出  
席が心配されました。



支部総会ではターミナルケアの講  
演会が目玉、こちらの会も各役員の  
協力、各支部の活躍でなかなかの盛  
会でした。ただ交通事情に問題があ  
り、多少の不如意がありましたこと  
は、この紙上にてお許しを願ってお  
きたいと思ひます。

などの報告をされました。  
支部としての事業報告は村田理事  
より次のような要旨の報告が行われ  
ました。

- 9・7・4 支部総会
9・10・30 男女共同参画地域会  
議への参加(大宮ソニッ  
クシティ)本部より田中  
理事、支部より深井理事  
出席
9・11・8-9 愛知県女性セン  
ター「ウィルあいち」見  
学。支部役員全員出席
10・1・25 国際女性フォーラム  
「彩の国(ソニックシテ  
ィ)加島、深井、源川、  
仁羅山出席。第4回北京  
会議のその後のとりくみ  
について講演
10・3・14 日本女医学会公開講演  
会(高崎メトロポリタン  
ホテル)理事および会員  
出席。群大宮地教授によ  
るスキンケアの講演
10・4・23 埼玉県副知事坂東真  
理子をおくる会(オース  
トラリア総領事として赴  
任)加島・村田理事出席
なお10年度事業計画案として、次  
の各項が深井理事より報告されまし  
た。
①埼玉県女性センターにおける女  
医学会の活動計画
②公開講演会
③施設見学会
つづいて、鈴木、中内理事より会

計報告、源川、仁羅山理事より会計  
監査の承認報告があり、最後は畑理  
事の閉会の挨拶で、わずか三十分で  
総会はスムーズに終わりました。

コーヒープレイクの後、ひきつづ  
き田中理事より演者森津純子先生、  
演題「命の奇跡をみつめて」の紹介  
があり、講演会に入りました。  
若く美しく、お話もわかりやすく  
ご自分の体験から話されました。  
どんな状況にあっても患者の意思  
を尊重、前向きに生きることが奇跡  
を生むこともあるなど、ホスピスに  
て経験されたことをいろいろお話し  
くださいました。一番大事な費用の  
点などについて関根理事から質問も  
ありました。

「白衣」を脱ぐとき

福島支部 菊池 壽子

一、進駐軍のペニシリン

唯一度のペニシリン注射にみどり  
児の呼吸安らぎにまに忘れず

杯にてディナーに入りました。  
アトラクションとして村田理事の  
ご紹介で芦野宏門下のシャンソン歌  
手原れい子様ほかお二人。しばしシ  
ヤンソンの世界へ、若き宝塚調の歌  
手と二人でおうたいになり、まこと  
に夢のような一時を過ごすことがで  
きました。

最後に総まとめの閉会、服部紀代  
子先生の堂に入った挨拶があり、  
本年度総会を無事に終えることがで  
きました。  
これは役員総出でその任を果たさ  
れたためと、私は心から感謝敬服し  
ている次第です。特に受付は吉崎、  
吉住、犬竹先生、服部先生はご多忙  
を極め、おみやげの受けわたし、ま  
たマンガ萩野吟子抄も七十冊も売り  
さばれました。  
いちいちお名前は挙げられません  
が、それぞれ各部署の精一杯のご活  
躍があればこそと深く感謝申し上げ  
る次第です。  
数日後、演者の森津純子先生より  
ご丁寧なおはがきを頂きました。

の言葉に、家人が夜になって、よう  
やくただ一本のペニシリンを入手で  
きた。  
当時のペニシリンは油性である。  
さて英文の使用書を患者で読む私は、  
冷汗三斗。心も手もふるえる思いで  
第一回の大腿部筋注。息をつめて見  
守る約二時間くらいとおぼえてい  
るが、唇に赤味が差し、呼吸がらく  
になって行く。

胸部所見も、はつきりわかる回復  
である。何という感激! こんな薬  
があったのか。感動とともに、戦争  
による日本の医学の遅れを、口惜し  
く思ったものである。

二、夫の死

郡山に帰って、十二年間の勤務医  
その後の開業という私の医業に関し  
て家族は絶対であって、愚痴をいう  
こともなく、協力的であった。

何よりもありがたかったのは、私  
の結婚直前に父が亡くなったので、  
母と一緒に住んでくれたことである。  
事実上、私の代りになって、子供た  
ちを育ててくれたのである。八十歳  
の生涯を私の家で静かに終えた。

昭和52年、思いがけぬ外傷で、脳  
出血、片麻痺となった夫、その後の  
約十年間は、心痛み、悔いの残る年  
月である。開業医の生活は、看病も  
傍に居ることさえ、思うようにはい  
かなかつた。

午後十一時壽子住診より帰らず  
と記しし夫の日記出て来ぬ

これは、たおれる前の日記を、死  
後に見つけたのであるが、女医の家  
族の心の内をしみじみと思つたので  
ある。

夫の発病で子らの予定も変り、長  
男は慶應義塾大学病院より帰り、そ  
の後、嫁の清子(東女医卒)も国立  
小児病院より帰り、私はようやくゆ  
とりができた。午後は夫の傍に居る  
ようになった。

三、余生

六十二年着し診察衣を収めたり  
故由もなく涙の湧きて

平成9年7月10日、八十五歳の誕  
生日を好機として、六十二年のあい  
だ手離すことになつた聴診器を置  
き、白衣を脱いだ。

思えば昭和9年3月、東京女子医  
専卒業後、母校小児科医局二年間、  
故磯田仙三郎教授、川野辺静医局長  
のご薫陶を受け、吉岡弥生先生の  
「至誠」の心を高く掲げて歩んだ、  
ささやかな女医の一生である。

かえりみて、私を育て、助けてく  
ださつた方々に深い感謝を捧げるの  
み。悔い多きは思わず、神の与えて  
くださる命を大切に、平安の道を歩  
みたいと願っている。

国際シンポジウム「変わりゆく社会と女性医療—21世紀に向けての提言」

International Symposium "Women's Health in a Changing Society—To the 21st Century and Beyond"

プログラム

日時: 1998年12月6日(日) 10時~17時

場所: 笹川記念館(定員: 800名、同時通訳付き)

参加費: 一般: 5,000円(予約)・6,000円(当日) 学生: 2,000円(資料代込み)

●プログラム:

- 10:00~10:10 挨拶: 「日本の女性医療—21世紀に向けて」 堀口 雅子
10:10~11:10 基調講演: 「20世紀と女性医療—女・男・世界、何が変わったのか」 ハーゲンフェルト
11:10~12:10 講演: 「ライフサイクルの変容と女性の健康」 フレーザー
12:10~13:00 休憩
13:00~14:00 講演: 「Informed Choice—証拠に基づく避妊法の選択」 ウエストホフ
14:00~15:00 講演: 「性感染症予防をどう行うか—教育と医療の現場で」 エリアス
15:00~15:30 講演: 「ポジティブに生きる女性のリスク・マネジメント」 早乙女・白井
15:30~15:45 休憩
15:45~17:00 パネル・ディスカッション: 「緊急提言: 女性が生き生き暮らせる社会を実現するために」  
ハーゲンフェルト、フレーザー、ウエストホフ、エリアス、早乙女、白井、芦田(司会)

外国人講師のご紹介:

- ・カースティン・ハーゲンフェルト: カロリンスカ大学産婦人科教授、WHO医学委員会議長、元スエーデン  
医学会・産婦人科学会会長。避妊をはじめ生殖医学の第一人者。
・イアン・フレーザー: シドニー大学産婦人科教授・ポピュレーション・カウンシル理事。次期オーストラリ  
ア産婦人科学会会長。月経から更年期にいたる生殖医学、婦人科疾患、および避妊の第一人者。
・キャロリン・ウエストホフ: コロンビア大学医学部産婦人科・公衆衛生学助教授。全米女性医学協会リブ  
ロダクティブ・ヘルス・イニシアティブ副委員長。婦人科領域、とくに避妊に関する疫学の第一人者。
・クリストファー・エリアス: ポピュレーション・カウンシル(バンコク)代表。性感染症の予防と治療での  
第一人者。



### 第1回少子化対策委員会

副会長 石原 幸子

9月17日午後5時30分より第1回少子化対策委員会が日本医師会館五階において開催されました。一九九人の委員の中心は五人でした。

各界のオーソリティーが集められた会場で、医師会の会合に慣れている私にもちよつと緊張を迫られました。坪井会長の挨拶の後、坂元先生が座長に指名され、高山、藤森両氏が副座長に、またワーキンググループの座長に平山先生が選出されました。各人が自己紹介とともにちよつと意見を述べるといふ形でしたが、経済学、環境整備、文化、福祉方面、日本文化の伝承、人口問題、家族制度、保育、教育、福祉など、多岐にわたる各専門的分野から、二十一世紀に向かつての提言があり、8時過ぎまで熱心に討論されました。産婦人科医からは今問題の夫婦間以外の体外受精も反対ではあるがなお考慮の余地があるということ。小児科医より、今、後進国では人口増加が問題になっている折、日本のみが少子化を考へるのは片手落ちである、もつと慎重に討議すべきであるとの提言は特に印象的でした。

- 問題として保育並びに保育園の問題がありますが、もつと医師会としては積極的に介入していただきたい、将来的には幼稚園と保育園の格差をな
- 少子化対策委員会委員**
- 天野 暉 (日本小児科医会会長)
  - 荒木 勤 (日本医科大学産婦人科教授)
  - 飯野 靖四 (慶応義塾大学経済学部教授)
  - 石原 幸子 (日本女医会副会長)
  - 小川 直宏 (日本大学経済学部教授)
  - 金上 幸夫 (青森県医師会会長)
  - 木村 治美 (共立女子大学国際文化学部教授)
  - 木村 陽子 (奈良女子大学生活環境学部助教授)
  - 坂元 正一 (日本母性保護産婦人科医会会長)
  - 高島 順子 (日本労働組合総連合会総合女性局長)
  - 高山 憲之 (一橋大学経済研究所教授)
  - 中辻 利夫 (全国社会福祉協議会保育協議会会長)
  - 永野 健 (三菱マテリアル(株)相談役/こと未来財団会長)
  - 平山 宗宏 (日本子ども家庭総合研究所長)
  - 藤森 宗徳 (千葉県医師会会長)
  - 松尾 宣武 (日本小児科学会会長/慶応義塾大学医学部小児科学教授)
  - 南 砂 (読売新聞編集局解説部主任)
  - 宮地 貫一 (衛星通信教育振興協会理事長)
  - 村上 忠行 (日本労働組合総連合会総合政策局長)
  - 村田 忠行 (日医担当役員・糸氏副会長 小池常任理事 香西常任理事)

くして行く方向に指導していただきたいと述べました。さて、今回と女性会員懇談会と一つの会に出席致しまして、改めて日本医師会の財力、組織力に感心致しましたが、何より各理事が非常に勉強し熱心に仕事をされている姿を目の当たりに致しまして大変感動致しました。私も、日本女医会ももつと大きな視野に立って動いていかないと時代に遅れてしまうのではないかと時代の危惧を抱いた次第です。

### パプアニューギニア救援金一覧

- 皆様がたのこ協力により募金が三七五、〇〇〇円集まりました。たいへんありがとうございます。
- 岡嶋喜代子 (北海道支部)
  - 斯波 憲子 (北海道支部)
  - 角掛 二三 (北海道支部)
  - 山家 英子 (北海道支部)
  - 青森県支部 (青森支部)
  - 青森県八戸女医会 (青森支部)
  - 大津 幸世 (青森支部)
  - 金子ミサヲ (秋田支部)
  - 細野貴美子 (秋田支部)
  - 松浦 麗子 (秋田支部)
  - 佐々木和子 (宮城支部)
  - 今泉 英子 (宮城支部)
  - 清水 洋子 (宮城支部)
  - 福田由美子 (福島支部)
  - 渡辺 トキ (福島支部)
  - 戸塚 陽子 (群馬支部)
  - 関根 みよ (埼玉支部)
  - 中地 祥子 (埼玉支部)
  - 村田 郁 (埼玉支部)
  - 行定 法子 (埼玉支部)
  - 吉住 幸子 (埼玉支部)
  - 富永真知子 (千葉支部)
  - 柳橋 京子 (千葉支部)
  - 山本みどり (千葉支部)
  - 及川 貞 (大田支部)
  - 青井 禮子 (葛飾支部)
  - 小松 郁子 (葛飾支部)
  - 鹿田 儀子 (北支部)
  - 武石 展代 (渋谷支部)
  - 栗原 久子 (新宿支部)
  - 酒井のぞみ (新宿支部)
  - 角田 アイ (新宿支部)
  - 中島 桂子 (杉並支部)
  - 大坪 公子 (世田谷支部)
  - 田中佐起子 (世田谷支部)
  - 富川 晶子 (世田谷支部)
  - 山下 知子 (豊島支部)
  - 中山 年子 (中野支部)
  - 石原 幸子 (練馬支部)
  - 大久保由美子 (文京支部)
  - 大澤真木子 (東女学内支部)
  - 須藤 孝子 (東女学内支部)
  - 竹宮 敏子 (東女学内支部)
  - 橋本 葉子 (東女学内支部)
  - 富山佐起子 (都下東支部)
  - 野澤 良美 (都下東支部)
  - 山崎 倫子 (都下東支部)
  - 石崎 純子 (都下西支部)
  - 小山 咲子 (神奈川支部)
  - 富岡 瑞子 (神奈川支部)
  - 中浜 昌子 (神奈川支部)
  - 松田久美子 (神奈川支部)
  - 杉本 とし (静岡支部)
  - 林 敏子 (静岡支部)
  - 森川 郁子 (愛知支部)
  - 堀内 三子 (長野支部)
  - 橋本美知子 (大阪10支部)
  - 滝本百合子 (京都支部)
  - 杉原 綾子 (兵庫支部)
  - 小倉夕エ子 (広島支部)
  - 西谷 享子 (広島支部)
  - 野田 富子 (香川支部)
  - 田中十糸子 (高知支部)
  - 白水 明代 (福岡支部)
  - 長友由紀子 (鹿児島支部)
- (敬称略)

### 私の大学 (広島大学医学部)

広島支部 宗像 壽子

広島大学は明治7年7月白鳥学校、明治8年4月広島県立師範学校から始まり、移転、昇格、認可、合併を繰り返して、総合大学になった。現在の医学部は昭和20年2月に広島県立医学専門学校から、昭和28年8月に年次移管により広島大学医学部に昇格したものである。

私は医学進学過程から医学部に入ったが、当時定員は四〇名、その内女性四名であった。原爆で校舎も附属病院も全焼。その後各地を転々とし、昭和31年3月、広島大学医学部は国立移管を完了した。

新制大学医科進学過程に入ったとき、広大には過ぎたるものが二つあるといわれた。それは、一つは広大という名前、もう一つは森戸学長の存在である。大学のパンフレットを見て驚いたが、現在の原田学長が規模においては日本でも一、二の大きさであるといわれているように、医学部の建物も多く、どこに何があるか分からないくらいである。年二回は関連病院代表会議に出席するが、それは同窓会館の広仁会館で行われることが多いし、会議でよくとろしか卒後何十年を経過している私に

はわからない。

### 日本人ペルー移住百周年記念式典 参加について

記念式典委員 橋本 葉子

1999年は、最初の日本人移民がペルーのカヤオ港に到着してから百年目に当たりますので、百周年記念式典および各種記念行事が日本とペルーの両国で行われることになっております。

ペルーにおける記念式典・記念除幕式・記念総合病院定礎式などは、1999年5月29日・30日の両日に行われる予定になっております。1996年12月に起こりましたベルー大使館占拠事件は不幸な事件ではありましたが、その後、日本とペルーとの関係は、より一層親密の度を増してきております。

1997年に来日されたフジモリ大統領と橋本前総理との間で、この日本人移住百周年記念事業を積極的に行っていくことが合意されました。また、ペルーでは「ペルー日本人移住百周年記念式典委員会」が正式

日赤広島県赤十字血液センターには年一回医学部の学生が見学に来てレポートを提出することになっていて、日赤病院血液内科には大学病院からも医師が派遣され、治療に協力体制をとっている。今後このマンモス大学から生まれる新しい医療に貢献する後輩たちを、期待して見守るつもりである。

に発足し、活動を開始しております。日本側でもペルーに関係の深い民間関係者による「日本人ペルー移住百周年記念事業委員会」が設置され、委員長には春名和雄日本ペルー経済委員会委員長(丸紅相談役)が就任され、活動を開始されました。

国際女医会関係では、ラテンアメリカ地域担当の副会長Rebeca Kuriyoshi氏が日系二世の方で、今回の第24回国際女医会議の会場設定に際し、ご苦労をなさいました。

百周年記念式典には、関係者多数が出席されることになっておりますが、この機会にペルーおよびその隣国訪問のご希望があれば、日本女医会としてツアーを企画してもよろしいのではないかと考えております。旅程は最低9日間くらいは必要か存じます。(例：1999年5月27日東京発ヨリマ、クスコ(マチュピ

### 理事会議事録

日時：平成10年4月25日(土) 午後3時より  
場所：日本女医会会議室  
出席者：石原、加藤、青井、大澤、清水、田中、西嶋、橋川、久田、平敷、松井、松本、丸茂、宮原、村田、中濱、野澤  
欠席者：佐藤、橋本、大坪、吉崎 (以上4名)

3月理事会議事録を承認  
報告事項 鹿田理事  
一、庶務報告 承認される。  
別紙どおり報告、承認される。  
二、会計報告 青井理事  
平成10年3月分収支別紙どおり報告、承認される。  
三、各部報告 佐々木理事  
【広報部】  
\*会誌154号は今月28日に発送予定  
【学術部】  
\*今月29日開催の学術講演会は現在のところ約一〇〇名出席予定。理事の多数の参加を要請。

チユ遺跡観光を含むヨリマ経由で6月4日東京着  
関心のある方は11月末日くらいまでに、日本女医会事務局に意思表示をお願いできれば、しあわせにぞんじます。

一、定時評議員会、定時総会について  
\*議題である「会員増強」について、庶務部で作成したブロック別(案)を検討し、不可欠である支部長の協力を得られるように努力する。  
\*議事進行を円滑にするため、評議員会次第・総会次第に基づき討議、検討する。  
二、平成10年度事業計画案および予算案について  
資料に基づき検討し、承認される  
三、国際女医会議について  
旅行案が出来ていないので、6月の理事会で検討する。  
四、第7回国際女医会西太平洋地域会議について  
次回(2002年、台湾開催)を承認する。  
五、その他  
宮城県女医会例会報告書「つどい」(仙台市医師会報掲載)の寄贈があった。

以上  
副会長(庶務部担当) 石原  
鹿田、清水、橋川、宮原

日時：平成10年6月27日(土) 午後3時より  
場所：日本女医会会議室  
出席者：橋本、石原、加藤、橋川、大坪、栗原、佐々木、清水、田中、久田、平敷、松井、丸茂、宮原、村

田、吉崎、中濱、野澤 (以上18名)
欠席者：青井、大澤、川田、佐藤、澤口、鹿田、西嶋、松本 (以上8名)

4月理事会議事録を承認
報告事項
一、庶務報告 清水理事

別紙どおり報告、承認される。
今後、イベントの案内、各種募集等のお知らせはFAXで支部長に連絡する。

二、会計報告 栗原理事
平成10年4、5月分収支別紙どおり報告、承認される。

4月からの会費納入状況の説明があった。
三、各部報告 丸茂理事

【事業部】
\*「いきいき」へ執筆のお礼
\*支部長へ執筆を依頼してはとの意見があった。

【渉外部】 田中理事
国際人権規約完全実施促進連絡会に出席の報告

【広報部】 村田理事
会誌155号の割付け会議を6月26日に開催。

協議事項
一、第43回定時総会の反省
\*総会時の特別講演を一般を対象として公開してはとの提案があり、前向きで検討することに決定。

二、会員増強について
\*若い女医に魅力ある会にし、女医

会の存在をアピールする。
\*滞納退会者についての見直しを検討する。

\*高齢者会費の会費減免について検討し、次々号会誌に減免希望者の申し出の受け付けの広告を載せる。

三、国際女医学会について
\*最新情報としてDr. KuniyoshiからのE-mailがあった(別紙)。

\*正式書類は国際女医学会本部より送付される予定。
四、女医の環境整備小委員会について

\*若い女医が直面している問題(出産、託児所、延長保育、病児保育など)を解決し、労働環境の整備をすることを目的とする。

\*メンバーとして荒木葉子会員(港支部)、早乙女智子会員(渋谷支部)に入っていた。詳細の調整を加藤副会長に一任。

五、その他
\*水道の件
事務局より従来職員が負担していた浄水器の使用料を会の負担にしてほしいとの申し出があり、全員賛成で許可をする。

\*新副会長の分担
石原副会長が事業部・広報部、加藤副会長が学術部・渉外部、橋川副会長が庶務部・会計部の担当となる。

\*観劇券について
新橋演舞場で上演される「荻野吟子」観劇券共同購入の申し出が埼玉

県妻沼町よりあり、東京都支部連合

会と東京近郊の県支部に協力を依頼する。

\*日医との懇談会について
前期より医道審議会委員に山崎名誉会長、今期より倫理委員に橋本会長、少子化対策委員に石原副会長、医療関係者対策委員に青井理事がそれぞれ選任されるなど、大なる協力を要請された。

\*年金について
年金の経過報告の有無について質問があったが、次々号会誌に経過報告、希望者の申し出の広告を載せる。

\*支部長について
支部長に支部助成金の用途など支部長としての任務を再認識していただくべきとの意見があった。

\*環境問題(ダイオキシン問題等)をテーマとし、一般対象とした講演会を学術部で計画する。

\*今年28日行われる故小侯喜久子先生の「お別れの集い」へのお香典は日本女医学会として五万円、理事会として三万円とする。

以上
副会長(庶務部担当) 石原清水、宮原

会員動静(敬称略)

新卒入会

加藤 千景 北海道
梅田 祐美 文京
大澤 真里 東女学内

入会

関寺美起恵(昭33年卒) 北海道
中地 祥子(昭60年卒) 埼玉
平野 正子(昭60年卒) 埼玉
藤倉 知子(平2年卒) 埼玉
飯田 竹世(昭9年卒) 栃木
上野 恵子(昭51年卒) 栃木
大塚 直美(昭60年卒) 栃木
柏木 弓(昭51年卒) 栃木
鎌田 郁子(昭55年卒) 栃木
寺本 チエ(昭55年卒) 栃木
長嶋 キヨ(昭26年卒) 栃木
原 たか子(昭36年卒) 栃木
藤田 三枝(昭20年卒) 栃木
桃井真里子(昭48年卒) 栃木
深井 梨花(昭61年卒) 埼玉
原 道子(昭56年卒) 千葉
三好 朋子(昭40年卒) 千葉
森山マサミ(昭40年卒) 品川
早乙女智子(昭61年卒) 渋谷
林 洋子(平3年卒) 杉並
複本 浩子(平5年卒) 世田谷
金子 行子(昭44年卒) 世田谷
池谷紀代子(昭55年卒) 東女学内
斉藤みち子(昭41年卒) 愛知
高岩 真理(昭54年卒) 大阪第3
福本 敏子(昭50年卒) 大阪第3
退会者数 一七名
物故者
出井 鉦子(昭9年卒) 板橋
友野 マサ(昭3年卒) 世田谷
宮崎 君代(大14年卒) 世田谷
小侯喜久子(昭8年卒) 都下東
宮沢きみ子(昭22年卒) 山梨
青木 豊子(昭19年卒) 広島
越智 壽枝(昭15年卒) 広島

集記 編後

「経済再生内閣」の看板を掲げ、小淵新政権の誕生。その発足後も日本経済はぬかるみに喘ぐ窮状で、巷では、無差別「毒薬犯罪」の連鎖続発事件。犠牲者の発生を阻止する術もなく腹立たしい毎日です。
今年の集中豪雨は、草木を乱して収穫前の稲をなぎ倒し、人々に不安を投げかけ過ぎ去って行きました。喧騒のさなか唯一の清涼剤は、日本医師会が女医学会会員を、委員会の一員として招聘下され、そのお名前を「日医ニュース」の中に確認できたときの喜びでした。世紀初の女性委員の誕生。歴史百年にしての快挙です。涙をのみ続けたなんとも長い道程でありました。
至誠天に通ず。鑄矢は放たれました。このお役の享受と義務の自覚は双肩に重い。(村田)

日本女医学会誌 第156号

平成10年10月25日 発行

編集人 大坪公子
発行人 橋本葉子
制作 金剛剛出版

発行所 社団法人 日本女医学会
東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150-0002 FAX 03-3498-8769